

# 第22回 経営フォーラム 2015 in Kitamatsuura

## 人を活かし、 企業を創り、 地方が輝く!

開催日：2015年11月6日(金) 会場：松浦シティホテル

### 経営フォーラムニユース



#### ● 記念講演報告

報告者 稲沢 文員

第22回経営フォーラム記念講演に衆議院議員山本有二氏を迎え、「人を活かし、企業を創り地方が輝く」のテーマで講演をいただきました。

まず、日本が直面している深刻な人口問題と地方を元気にして行くための基本戦略を説明いただきました。

現在の東京圏一極集中の人口問題、都市・地方圏の人口移動問題と年代別転入超過数の状況等地域が持つ実情を踏まえ、多様な取組で投資と施策を集中し地方を元気にしていくべきではない。日本は若年層を中心に地方から大都市への「地域間移動」が激しく、地方の人口減少の最大要因は若年層の流出にある。東京人口集中の原因を高度成長、受験・就職、ブランド志向、大企業の集中や営業拠点集中などと分析され、対策として大学を地方に分散すること、就職口が地方にある事、第三次産業（サービス業）が育成されることで、現在食の美味しさは地方が既に勝っているため六次産業化を含め取組をしなければいけないと述べられました。

このままでは多くの地方自治体も消滅の可能性を残し、我が長崎県も人口移動が終息しない場合において、2040年には若年女性が50%減少、疲弊する。又これ以上の一極集中は、出生比率の点でも少子化対策にならない（地方が出生率で高い数値を示す。婚姻率東京50%で結婚をして周辺地埼玉、千葉、神奈川県に移り住む）ので、万が一の有事（現在、安保法制の防衛環境の変化ミサイルの速度、精度・破壊力が進歩し、首都圏の危険大）や首都圏直下地震対策にも有効である。ドイツでは首

都ベルリンだけではなく地方にも人口が分散されており日本のような偏りはないとも語られました。

松浦での講演でしたので北松浦を例に取上げて地域の現状を分析いただきました。北松浦地区は長崎県の人口の約7%にあたり、約10万人が居住し、人口の推移は減少傾向、高齢化比率は約29%と超高齢社会で、特に平戸市は増加傾向が著しい。通勤通学時の移動手段の7割が自動車に依存し、増加中で北松浦の世帯当たり自動車保有台数は年々増加し、全国平均を大きく上回っています。（他の交通手段が少ない）高規格幹線道路整備では、我が国は都市間の速達性は、諸外国と比べて全体に低い水準で松浦・佐々間や伊万里・松浦の事業着手が待たれます。西九州自動車道のストック効果として水産物や観光振興、企業立地の広域展開が期待できます。長崎県産サバの東京卸売場の平均価格も西九州道路整備につれ、価格も向上し市場平均の4倍に上昇しました。観光振興として、地域活動と自動車道の開通との相乗効果が松浦・平戸地域への来訪者が増加、企業立地の面では西九州自動車道の整備につれて、県内工業団地が増加し、アジアへの近さ、少ない災害リスクを武器に延伸と共に国内有数の製造業が次々と進出



してきています。

松浦はマグロ養殖の最適条件を備えた場所であり、トラフグと共に取組施策を進める事が大切です。

地方での生き残り事例として、貸出業務に特化した経営方針の話がありました。広島市信用組合の山本明弘理事長による他金融機関との差別化戦略で、社員は顧客廻りする新規会社のBSを頭に叩き込んでから新規訪問し、積極的に限度額までの融資を3日間で判断するというスピード融資（リスク承知）です。預貸比率100%の信用組合で増収増益を続けている素晴らしい企業であり、理事長の経営手腕が素晴らしく人が全てであり、素材、お金も人で生まれる。都会は都会で、比較優位の価値観にはならない。地方での主人公は自分たちであるということでした。

他に、デフレでまちが深刻、悪の根源として人口減少、住宅土地利用減少、シャッター商店街などを挙げられ、デフレが無いまちとして、小田急田園都市線、計画駅前、宮城県仙台市泉パーク（分譲開始時から値下がりがしない住宅団地）、高知県梶原町の金の要らない市民による計画（町の計画道路で住民の話し合いによる片側のみセッパックして400mの道路拡幅完成し、綺麗な町）などの地方

再生成功事例をご紹介いただきました。最後に地方創生に必要なこと（これらを提供できる地方のみが必要とされる事で）締めくくっていただきました。

計画的環境

地元の宝物を探し、信じて迷わない、「アマゾンでは買えないもの」こそ宝、自分の収益にとらわれず、顧客や200年後の美意識に伝えられる努、町民全員が参加するまちづくり

比較優位

進学・就職・趣味・交友関係などにおいて、都会と比較して納得できるものが得られるか

CCRRC

継続的リタイヤメントコミュニケーション、生活していく上で必要な施設やサービスがまちの中にそろうている。

1000年後に残るもの「生涯楽しめる」ことが重要

地方が生き残るためのヒントを多くいただきました。先を見据えた金の要らない計画、計画推進のための合意、人の無限の可能性を感じました。





